

仲間づくり教養コース ②国際社会学

大転換期を迎えた21世紀の世界を読み解く

第5回 米国の裏庭から脱して

試練に直面する中南米カリブ諸国共同体

日時 11月26日(土) 10:00am~

場所 鶴瀬公民館 第三集会室

講師 田中 靖宏 氏

(日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会常任理事 国際部長)

第五回は、「米国の裏庭から脱して～試練に直面する中南米カリブ諸国共同体」について学習しました。

日頃馴染の少ない地域の講義であり、皆さん目と耳を凝らして講座に聴き入っておられました。

講師の先生は、第三回に引き続き田中靖宏氏でした。

先生は、中南米諸国に在住の経験も豊富で、現地での体験も含めて色々お話頂き、受講生には新鮮に映ったようです。

まず、世界地図も中南米諸国では、私たちが普段見慣れている太平洋が中心のものでなく、大西洋が中心にある（欧米も同様）もの。日本国に対するイメージは、ヨーロッパを越え更にアジアの外れにあり、非常に遠い国。従って馴染みのない国のひとつであると。

また冷戦時代の中南米諸国は、米ソのはざままで政治・経済・文化とあらゆる面で翻弄されたとのこと。なお、今回の受講生は36名でした。



中南米から見る世界

- アフリカが、お隣り
- 米国に近く、神から遠い
- 軍人と革命
- 米国の目を通して見る中南米→壁を作れと言われた側は・・・

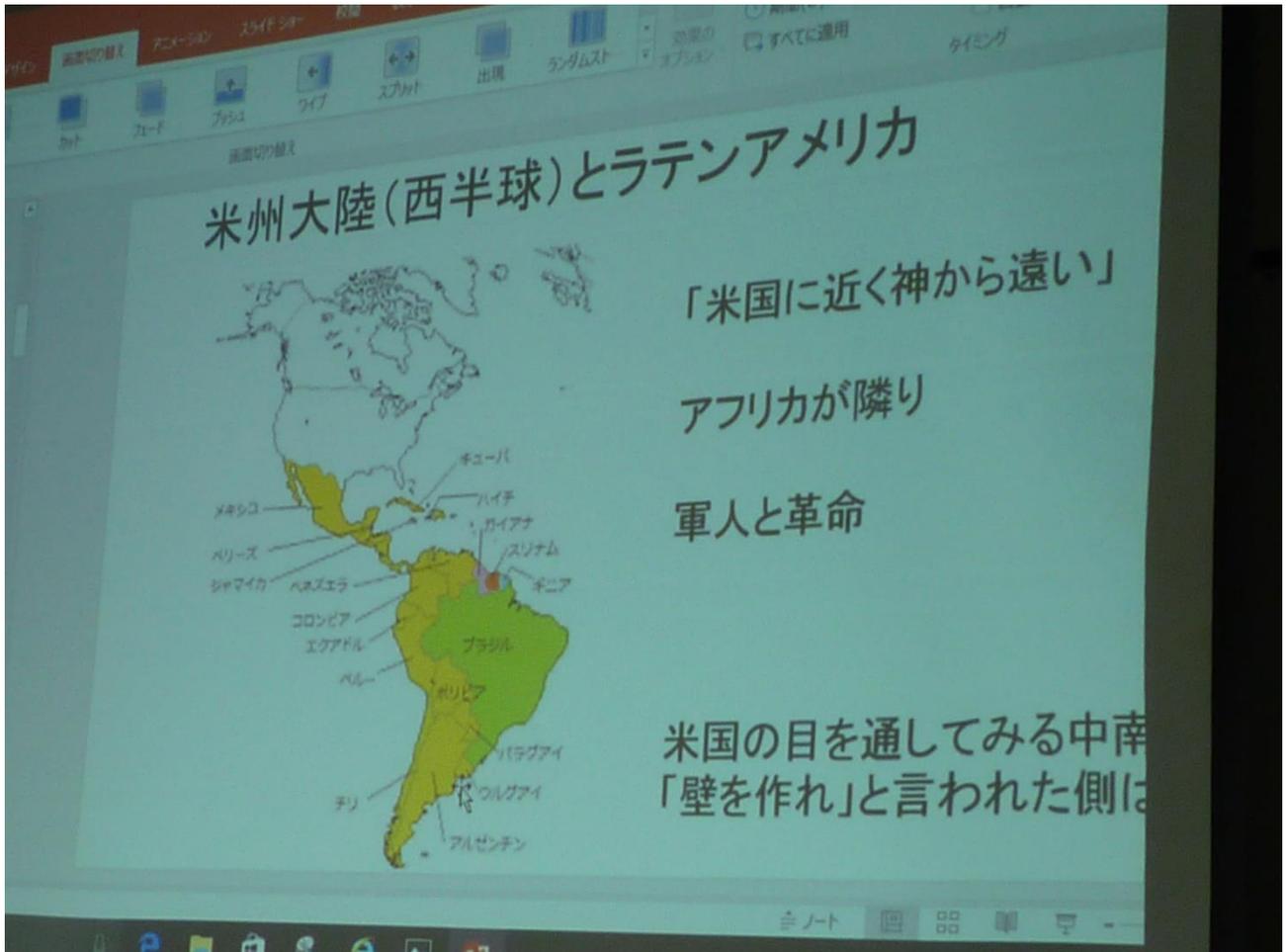
中南米の概要

- 人口 6億3千万人（世界の8.6%）
- 面積 2043万平方キロ（世界の15.2%）
- GDP 9870億ドル（世界の7.9% 日本の1/4）
- 人種 混血 メスチソ ムラト
- 宗教 カトリック 修道会 イエズス会 解放の神学 ペンテコステ派（プロテスタント）

中南米の独立と基本の社会構造

- スペイン植民地の大地所有制（ラティフンディオ）
- 19世紀初めの独立
 - 権力はペニスラーレスからクリオーヨニに
 - ラティフンディオの支配構造は変わらず
 - 独立戦争で生まれた軍人階級の世襲化で、オルガルキア（特権支配層）の形成
- 植民地から世界貿易に解放されたが、英資本の恰好の餌食に
- 20世紀、英国に代わって米国資本に支配される
- オルガルキアと外国資本に支配される従属体制→この支配を打破する人民の革命運動



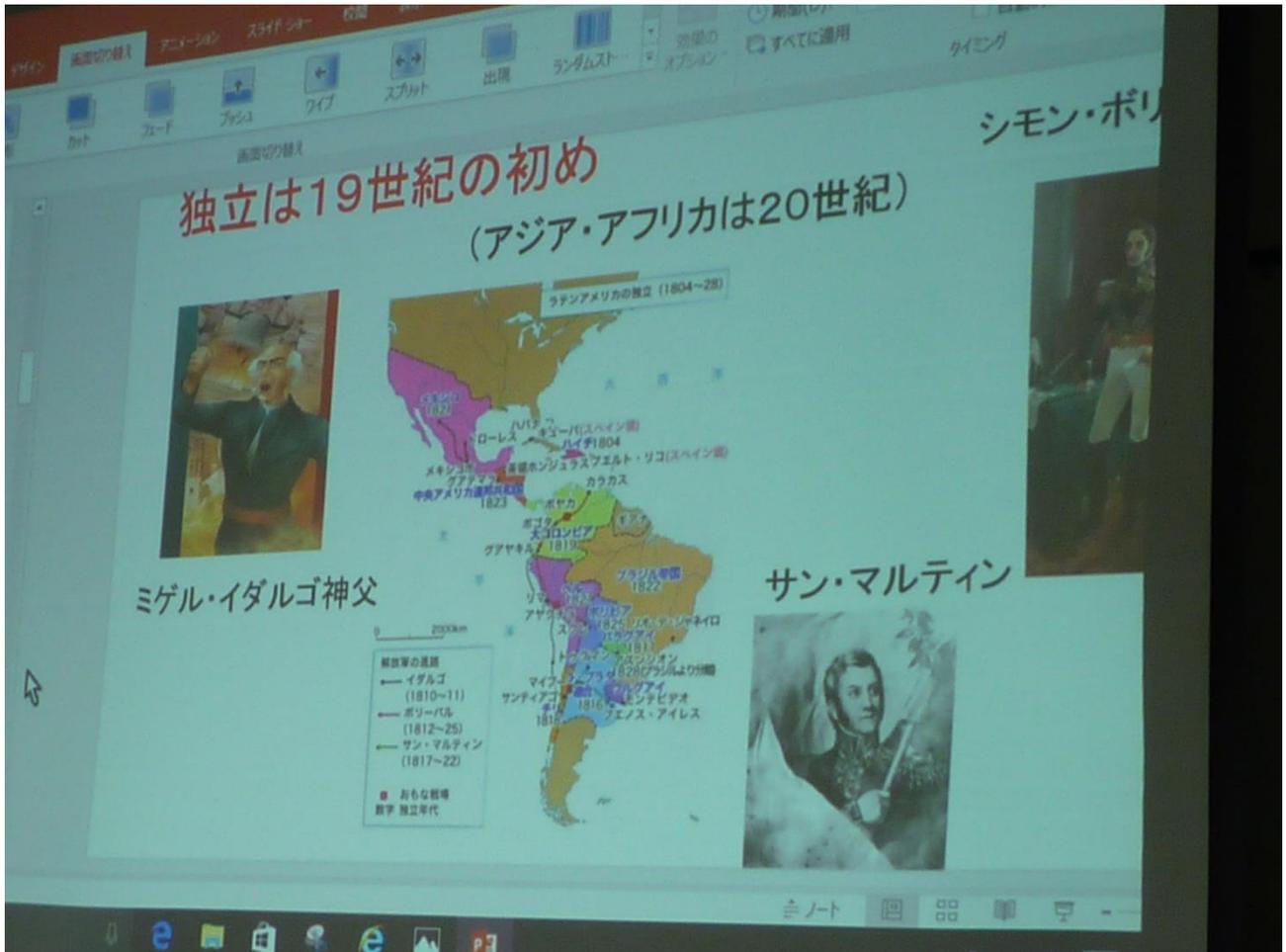


なぜ米国の裏庭と呼ばれるか

- 1787年 北西部条例と憲法修正4条 連合州への組み入れ
- 1823年 モンロー宣言 第5代大統領年次教書で米州への関与を排除
- 1847年 テキサス併合と米墨戦争
- 1898年 米西戦争によるキューバ占領 ハワイ、フィリピン
- 1902年 米議会の「プラット修正」とキューバ独立（干渉の権利あり）
- 1903年 パナマ独立とパナマ条約（介入の権利あり）
- 1904年 セオドア・ズベルト教書「文明国による国際的警察権発動（こん棒外交）」

戦前・戦後の中南米への軍事介入

- アメリカの中米カリブへの軍事介入
 - パナマ（6年） ホンジュラス（5年） キューバ（11年） ニカラグア（23年）
 - ハイチ（20年） ドミニカ共和国（10年） メキシコ（1年）
- 1947年～1969年 15回発動 米州相互安全保障条約（リオ条約）
- 米軍の侵攻、傭兵の侵攻、クーデターによる政権転覆
- 1961年 キューバのカストロ政権打倒を狙い、傭兵が侵攻し撃退 以後 2009年まで数々



米国政権の対中南米政策（キューバの孤立化）

- 1961年 アイク政権がキューバと断交、全面禁輸
- 1962年 米州機構（OAS）で、キューバを除名 ケネディ政権の「進歩のための同盟」
- 1979年 ニカラグア革命
- 1992年 ブッシュ政権によりトリセリ法
- 1989年 ワシントンコンセンサス（新自由主義の導入）
- 1994年 北米自由貿易協定（NAFTA）発効 第1回米州首脳会議（AFTA構想）
- 1996年 クリントン政権により、ヘルムズ＝バートン法制定（キューバを支援する国への制裁）
- 2005年 第4回米州首脳会議（AFTA頓挫）
- 2015年 第7回米州首相会議（キューバが初めて参加）

米国からの自立、新自由主義反対の政権

- 1998年 ベネズエラ（チャベス大統領当選）
- 2002年 ブラジル労働党（ルラ）
- 2003年 アルゼンチン（キルチネル政権発足）
- 2004年 パナマ（マルチン・トリホス大統領当選）
- 2004年 ウルグアイ拡大戦線（バスケス大統領当選）

- 2005年 ボリビア（モラレス大統領当選）
- 2006年 チリ社会党政権発足（バチェレ）
- 2006年 ハイチ希望党（プレバル大統領当選）
- 2006年 ガイアナ人民進歩党（ジャグディオ大統領当選）
- 2006年 ニカラグアSFLN党（オルテガ大統領当選）
- 2006年 エクアドル祖国同盟（コレア大統領当選）
- 2007年 グアテマラ国民希望同盟（コロン大統領当選）

中南米カリブ諸国の自主的統合の歩み

- 初めは経済から＝中南米共同市場、アンデス共同市場、メルコスル（1994）
- 紛争の自主的解決をめざして
 - 1983年 中米の紛争解決をめざすコンタドーラ・グループ
 - 1986年 コンタドーラ・グループ母体にリオ・グループ結成
 - 2004年 南米共同体の創設へ宣言（アヤクーチョウの12ヶ国南米サミット）
 - 2007年 南米諸国連合（UNASUR）に改称
 - 2010年 中南米カリブ諸国共同体（CELAC）設立宣言
 - 2011年 CELAC設立首脳会議（33ヶ国） 核兵器廃絶の特別声明
 - 2013年 CELAC第3回首脳会議「平和地帯宣言」

米州相互援助条約（リオ条約）は機能不全

- 1981年 フォークランド紛争で、米が英を支持
- 条約から脱退（イラク戦争直後）
 - 2002年 メキシコがリオ条約から脱退を通告
 - 2004年 ALBA（米州ボリバル同盟）の結成
 - 2012年 エクアドル、ニカラグア、ベネズエラ、ボリビアがリオ条約脱退

中南米カリブ海諸国共同体（CELAC）の発足

- 2つの基準
 - ①新自由主義の経済政策
 - ②米国から自立した政策、でみると
 - ・左翼政権：6ヶ国
(キューバ、ベネズエラ、ウルグアイ、ボリビア、ニカラグア、エクアドル)
 - ・中道左派政権：6ヶ国
(ブラジル、アルゼンチン、エルサルバドル、ガイアナ、ドミニカ、ペルー・)
 - ・中道政権：14ヶ国
(チリ、グアテマラ、パラグアイ、ハイチ、他カリブ海諸国7ヶ国)
 - ・右派政権：7ヶ国
(ベリーズ、コロンビア、コスタリカ、ホンジュラス、メキシコ、パナマ、

スリナム)

キューバと米との国交回復

- 2014年12月7日 関係正常化交渉の開始を発表
- 2015年7月1日 54年振りの国交回復<米国のキューバを孤立させる政策が破たん>
- 国連での制裁解除決議の増加
 - 1992年 キューバが、米国のキューバ禁輸措置解除を国連に訴え
 - 賛成 59ヶ国 (33%) 反対 3ヶ国 棄権 71ヶ国 欠席 46ヶ国
 - 2010年 賛成 187ヶ国 (97%) 反対 2ヶ国 棄権 3ヶ国 欠席 0ヶ国
- 米州首脳会議でのオバマ政権の孤立
 - 2014年 第6回会議でALBA諸国の最後通告
 - 2016年 第7回会議でキューバ初参加とオバマ・カストロ会談 (5年振り)

2016年試練の左派政権

- キューバの経済困難
 - 外貨事情がひっ迫、大幅な電気消費、ガソリン消費の節約呼び掛け
 - 石油価格の下落、ニッケル価格下落、砂糖生産の減少など
- ベネズエラの経済危機
 - インフレ、物不足、政治対立、「ベネズエラ解放2作戦」計画
 - OASの介入、アラマルゴ事務局長の資格停止提案
- ブラジルの経済も4%マイナス成長



*冒頭田中先生から「今回のテーマを進めるにあたり、どうしても次期アメリカ大統領にトランプ氏が当選した背景をお話したい」とのことで、私たちが日本のメディアから入手した情報にないお話が聞け、アメリカの国内事情が良く理解できました。

【文責：秋山孝昭】